



日本の医療と先進医療技術に関する 意識調査

2011 年 7 月

米国医療機器・IVD 工業会 (AMDD)

目次

はじめに	1
調査のまとめ（要旨）	2
AMDD からの提言	4
調査の概要	5
第 1 部 先進医療技術について	6
第 1 章：先進医療技術の認知度と重要性について	7
1. 先進医療技術は多くの一般国民に認知されており、80%以上が使用経験がある	7
2. 多くの国民が先進医療技術を重要だと思っている	8
3. 先進医療技術は「早期発見・早期治療」「低侵襲」「正確な診断」という点で重要	9
4. 一般国民は診断面で、患者は治療面で、先進医療技術の価値を認識している	10
5. 10 年後の健康状態に不安を感じている人ほど、先進医療技術を重要と考えている	11
第 2 章：世界最新の医療技術での診断や治療について	12
1. 多くの国民が世界最新の医療技術の利用を望んでいる	12
2. 患者、一般国民共に医療費が多少高くなっても世界最新の医療技術を希望している	13
第 3 章：デバイスラグなどの課題について	14
1. 一般国民に比べ、多くの患者がデバイスラグなどの課題を認識している	14
2. 多くの国民がデバイスラグなどの課題の早期改善を期待している	16
第 2 部 日本の医療について	17
1. 日本の医療において重要な点は「医療の質の向上」	17
2. 現在の医療制度に満足している国民は、全体の半数以下	18
3. 多くの国民が個人負担の水準や医療へのアクセスに満足している	19
4. 患者は最新の治療が得られないことに、一般国民は費用面に不満をいだいている	20

はじめに

米国医療機器・IVD工業会（AMDD）は主に米国に本社を置く先進医療機器メーカーの日本における業界団体です。当会の会員企業が提供する先進医療技術は、がんなどの疾患の早期発見・早期診断、また患者さんの救命や術後 QOL の向上などに大きく貢献しています。その製品としては、心臓ペースメーカーやステントなどのカテーテル治療、また人工の心臓弁や人工関節、白内障治療のための眼内レンズなどの医療機器、あるいは CT や MRI などの画像診断機器や、検査や診断に不可欠な体外診断用医薬品などさまざまな技術があり、こうした先進医療技術は現在の日本の医療にとってなくてはならない存在となっています。

このような先進医療技術を提供する業界団体として、私どもは、先進医療技術が日本の国民および患者さんにどのように受け取られているか、また今後の医療機器やそれを取りまく医療制度に対してどのような希望をもっているかを知るため、調査を実施いたしました。本調査は、一般の国民 2,000 人を対象としたインターネット調査と、患者団体の代表の方々への郵送による調査の 2 部構成となっています。

本調査を行って得られた日本の国民や患者団体の皆様の医療機器に対する意識の実態や生の声は、今後の日本の医療の中での医療機器のあり方に資するものになると確信しております。また本調査結果は、行政関係者や政策決定者、さらにはマスコミに向けて発表し、広く公表することで、さまざまな関係諸団体、また行政関係者の皆様とともに医療機器についての問題意識を共有し、日本の国民、および患者さんのお役に立つように活用して参りたいと存じます。

また、本調査にご協力いただいた患者団体の皆様にはこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

米国医療機器・IVD工業会（AMDD）
会長
デイビッド W. パウエル

調査のまとめ（要旨）

米国医療機器・IVD工業会（AMDD）が行った本調査は、先進医療技術が日本の国民および患者さんにとどのように受け取られているか、また今後の医療機器やそれをとりまく医療制度に対してどのような希望をもっているかを知ることを目的として実施された。

本調査は、一般の国民 2,000 人を対象としたインターネット調査と、患者団体の代表の方々への郵送による調査の 2 部構成となっている。第 1 部であるインターネット調査は、2010 年 9 月 24 日から 30 日にかけて実施され、40 歳から 69 歳までの男女 2,000 名（男女半数ずつ）から回答を得るとい、日本における医療機器および体外診断用医薬品に関する初めての大規模な意識調査である。第 2 部では、医療機器に係る患者団体 136 団体の代表者に対して、先進医療技術や日本の医療について患者団体の代表としての意識を調査したところ、50 団体から回答があり、そのうち有効回答は 49 サンプルだった。

なお、本調査は AMDD が調査会社の株式会社アイ・アイ・シー・ジャパンに委託して実施され、本調査報告書は、AMDD によってまとめられたものである。

本調査報告書においては、「先進医療技術について」、「日本の医療について」の 2 部構成とし、第 1 部「先進医療技術について」では、「先進医療技術の認知度と重要性」、「世界最新の医療技術での診断や治療」および「デバイスラグなどの課題」の項目に分け、それぞれ一般国民と患者団体での結果を比較し考察している。調査結果・分析結果の概要は以下の通りである。

1. 先進医療技術の認知度と重要性

- 調査で挙げた先進医療技術のうちいずれかを認知している一般国民は 93%と高く、また 81%が先進医療技術を利用したことがあると回答した。[P.7 参照]
- 自身や家族が診断や治療を必要とするときに先進医療技術を利用することについて、「非常に重要」または「やや重要」と答えた一般国民は 87%と大多数を占めた。同様に、患者団体でも「非常に重要」「やや重要」との回答は 86%となり、日本国民の多くが先進医療技術の重要性を認識していることが明らかになった。[P.8 参照]
- 先進医療技術を重要と思う理由については、一般国民では、70%以上が「病気の早期発見・早期治療」「低侵襲」「迅速で正確な診断」を挙げている。同様に、患者団体では、「低侵襲」が 88%、「迅速で正確な診断」が 71%、「病気の早期発見・早期治療」が 67%となっており、先進医療技術の重要な特徴のひとつである低侵襲性が高く評価されていることがわかった。[P.9 参照]

2. 世界最新の医療技術での診断や治療

- 現在または将来に自身または家族が診断や治療を受ける必要が生じた場合、一般国民では74%が先進医療技術の利用を「とても希望する」または「希望する」という意向を示した。患者団体では86%に上っており、当然のことながら患者団体の方がより先進医療技術の利用への希望度合いが高かった。[P.12 参照]
- 上記の質問で、先進医療技術の利用を「希望する」意向を示した人のうち、「医療費が多少高くなっても世界最新の医療技術を利用したいかどうか」という質問に対して、一般国民では66%、また患者団体では74%が「医療費が多少高くなっても世界最新の医療技術の利用を希望する」と回答した。日本国民の多くが世界最新の医療技術の利用のためには医療費が多少増加してもよいと考えていることがわかった。[P.13 参照]

3. デバイスラグなどの課題

- 一般国民において、「ドラッグラグ」「デバイスラグ」「デバイスギャップ」という言葉の認知率が20%前後と低いのに対し、患者団体では、いずれも60%以上の認知があり、当然のことながら患者団体の方が日本の医療の課題について問題を認識・把握していることがわかった。[P.14 参照]
- 「デバイスラグ」では、一般国民の85%、患者団体では90%が、また「デバイスギャップ」は一般国民の83%、患者団体では78%が「ただちに改善すべき」または「なるべく早く改善した方がよい」と回答しており、日本国民の多くが世界最新の医療機器および体外診断用医薬品のいち早い導入を望んでいることが明らかになった。[P.16 参照]

4. 日本の医療について

- 「日本の医療に対する満足度」については、一般国民の43%が現在の日本の医療に「満足している」と答えたのに対し、24%は「あまり満足していない」または「全く満足していない」との回答であった。患者団体では、「満足している」との回答は同様に43%だった一方で、「満足していない」と回答したのは39%にのぼっている。[P.18 参照]
- 日本の医療において、「医療の質の向上」を「重要」と回答した人の割合は、一般国民で90%、患者団体でも87%と高く[P.17 参照]、また日本の医療に「満足していない」と回答した理由として、日本では「海外の最先端の医療が受けられない」ことをあげた人は、一般国民では35%、患者団体では53%にのぼった。[P.20 参照]

AMDD からの提言

AMDD は、本調査結果の分析を踏まえて、次の提言を行う。

先進医療技術は日本国民に幅広く認知されており、またその重要性も十分認識されているが、一方で日本の医療において課題となっているデバイスラグやデバイスギャップについては迅速な改善を望んでおり、世界最新の医療技術へのアクセス向上を希望している現状がある。また国民の半数以上は、医療費をもう少し多くかけても世界最新の医療技術を利用したいと考えていることがわかった。

デバイスラグとは、新しい医療機器および体外診断用医薬品の国内市場への導入が、欧米諸国よりも大幅に遅れることであるが、特に新医療機器については日米欧の中で最後となっており、医療現場でも大きな問題となっている。現在、政府、行政としてもその解消に努力されているところではあるが、いまだ本質的な解決には至っていないため、アクションプログラムの一層の推進が期待される。またデバイスギャップとは、世界で使われている医療機器が、結果として日本に導入されない状況であり、性能の向上やより高い安全性の確保の観点から日本の患者さんに大きな不利益をもたらしていると考えられる。

このようなデバイスラグやデバイスギャップが生じる理由としては、医療機器を取り巻く日本特有の薬事関連規制が、メーカー側の実務量や追加データ収集のための投資負荷を増やしたり、日本市場への導入時期の予見性の難しさから、ビジネスプランの立案ができないため、企業における導入の意思決定を困難にさせたりしていることがある。また新規製品に対する価格決定制度において、イノベーションに対する評価が不十分であることや、既存製品における機能区分ごとの市場実勢価格や再算定制度（外国平均価格との比較）による価格引下げ、また革新的な新製品における予測不可能な価格決定プロセス（価格決定時期や価格自体）があると考えられる。イノベーションは、医療機器のたえまない開発・改良・改善をはかることで達成されるが、より安全で有効性が高い治療を可能にすると同時に、迅速で正確な診断、病気の早期発見、早期治療、そして低侵襲な治療を可能にし、患者さんの QOL 向上に貢献するだけでなく、ひいては国全体の医療費の削減にも貢献するものである。

国内の医療機器産業を育成し、デバイスギャップの解消を図るためには、医療機器のイノベーションを適切に評価し、保険償還価格に反映していくことが不可欠である。特に特定保険医療材料については、日本市場への導入コストや経営コストが諸外国よりも高い状況があるにもかかわらず、現状では、新製品の価格が海外価格より低く設定されている例も多くみられ、市場導入促進への大きな障害となっている。

また薬事規制関連としては、本邦における薬事規制要求事項を国際的標準に照らして明確化し、承認審査において企業側・審査側双方において最小限負荷での評価（リストバーデンサムアプローチ）を実現する必要がある。

医療費が多少高くなっても世界最新の医療技術の利用を望む国民の期待に十分にこたえるため、また日本の医療の向上を促進し、医療機器・体外診断用医薬品産業全体の技術革新に資するためにも、再算定制度を廃止し、イノベーションを診療報酬上の評価に適切に反映させ、価格決定プロセスを明確化させていくことが必要である。

調査の概要

目的:

先進医療技術が日本の国民および患者にどのように受け取られているか、また今後の医療機器やそれを取りまく医療制度に対してどのような希望を持っているか調査する。

調査方法:

調査方法は一般国民に対するオンライン調査と、患者団体への郵送によるアンケート調査の2部構成で行った。

1. 一般国民に対するオンライン調査

- 調査方法：インターネット調査（調査実施日：2010年9月24日～9月30日）
- 調査対象：40歳から69歳の男女（男女の比率は半々）
- 調査地域：全国
- 回収数と回収数の割付：2,000人のサンプル（2005年国勢調査結果から地域と年齢の割付を実施）

	全 国	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
40代	626	74	212	116	100	54	70
50代	750	92	244	138	122	70	84
60代	624	74	204	116	108	56	66
合計	2,000	240	660	370	330	180	220

- 調査の誤差：±0.4 - 2.2%（2,000人が回答した質問の場合）
- 調査委託会社：株式会社アイ・アイ・シー・ジャパン
- インターネット調査実施会社：株式会社 CiM-Net リサーチ

2. 患者団体に対するアンケート調査

- 調査方法：郵送調査（調査実施日：2010年10月29日～2011年1月31日）
- 調査対象：医療機器に関する患者団体 136団体の代表者
- 回収数：50サンプル（有効：49サンプル、無効：1サンプル）
- 調査委託会社：株式会社アイ・アイ・シー・ジャパン

第1部 先進医療技術について

本調査では、まず始めに先進医療技術についての認知度と重要性、先進医療技術の特性別評価や、世界最新の医療技術の希望度合い、またデバイスラグなどの課題についての意識を調査した。

なお、本調査において、先進医療技術の例として定義された医療機器/体外診断用医薬品は以下の通りである。

「医療機器/検査」(先進医療技術)のリスト

心臓ペースメーカー	子宮頸がん検査
植込み型除細動器 (ICD)	前立腺がん検査 (PSA)
体外式除細動器 (AED)	超音波検査 (エコー)
カテーテル治療 (バルーン/ステント)	内視鏡検査
人工心臓弁	乳がんマーカー
人工水晶体 (白内障治療用眼内レンズ)	心筋梗塞マーカー
人工関節	マンモグラフィー
脊椎インプラント	CT (コンピュータ断層撮影装置)
シャント (水頭症治療機器)	MRI (磁気共鳴画像装置)
インスリン自動注入ポンプ	PET (陽電子断層撮影装置)
人工透析	自己血糖測定器
脳動脈瘤コイル塞栓術	コンピュータ支援診断システム (CAD)
腹腔鏡手術	心電図
放射線治療装置	

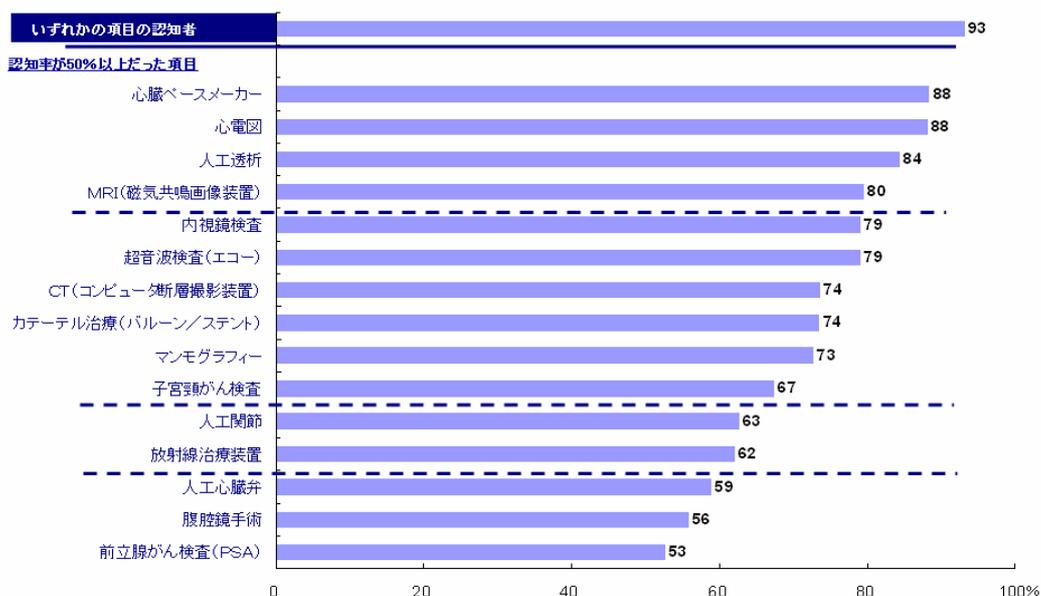
第1章： 先進医療技術の認知度と重要性について

1. 先進医療技術は多くの一般国民に認知されており、80%以上が使用経験がある

まず、一般国民に対して先進医療技術の認知度、および体験率を調査したところ、本調査で「先進医療技術」として挙げた「医療機器/検査」に対して、心臓ペースメーカー、心電図、人工透析、MRI、内視鏡検査、超音波検査、CT、カテーテル治療、マンモグラフィーが全体の70%以上の人に認知されており、また、いずれかの先進医療技術を体験したことがあると答えた人は81%に上った。(なお、患者団体では何らかの疾患を持ち医療機器/検査については認知と体験率が高いと思われるため、同様の質問はしていない。)

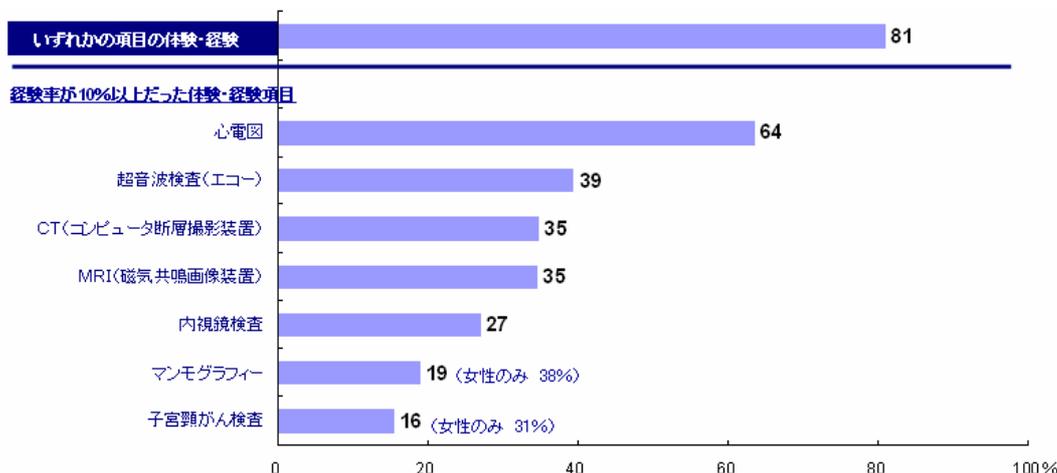
Q. ここに挙げた医療機器および検査は、先進医療技術です。この中からあなたが聞いたことのある「医療機器/検査」(先進医療技術)を全てお教えください。【複数回答】

一般国民 (N=2,000)



Q. あなたが体験したり受けたことのある「医療機器/検査」(先進医療技術)を全てお教え下さい。【複数回答】

一般国民 (N=2,000)

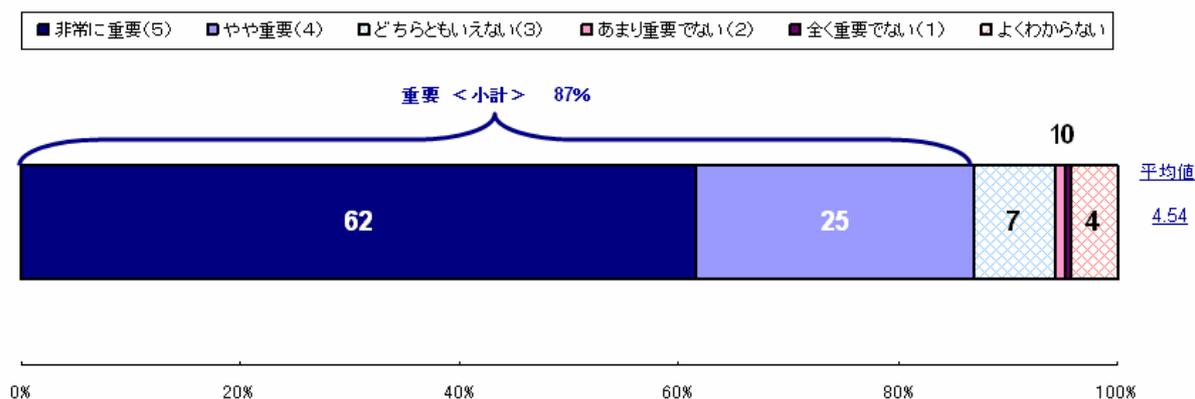


2. 多くの国民が先進医療技術を重要だと思っている

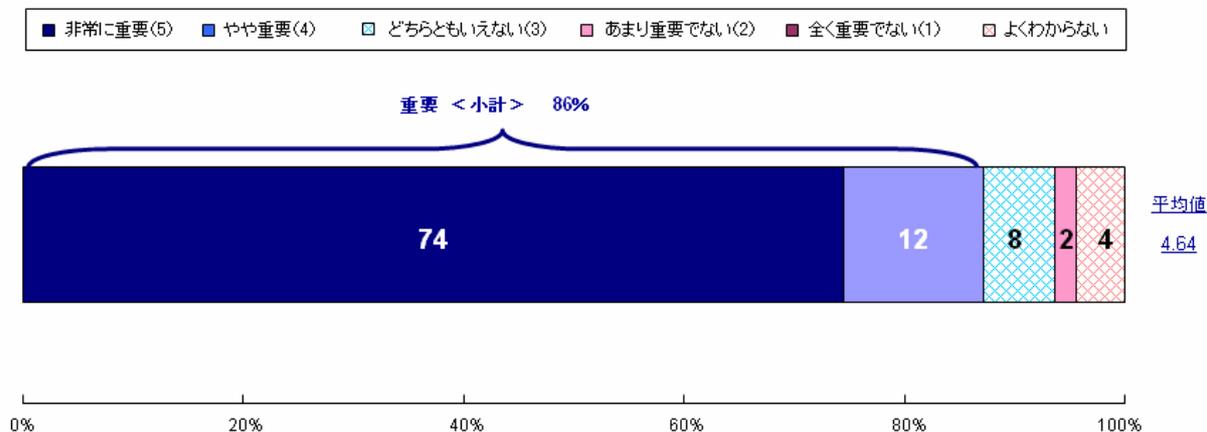
自分や自分の家族が診断や治療を必要とする時、これらの先進医療技術はどの程度重要と思うかという質問では、一般国民、患者団体のどちらも約9割が「非常に重要」または「やや重要」と答えているが、「非常に重要」と答えているのは一般国民で62%であるのに対し、患者団体では74%となっており、当然のことながら、より患者団体において先進医療技術への期待が大きいことがわかる。

Q. 先程呈示した「医療機器/検査(先進医療技術)」のリストを見てください。あなたは、これらの「医療機器/検査」(先進医療技術)が、あなたやあなたの家族が診断や治療を必要とするとき、どの程度「重要」だと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いところを1つだけお選び下さい。

一般国民 (N=2,000)



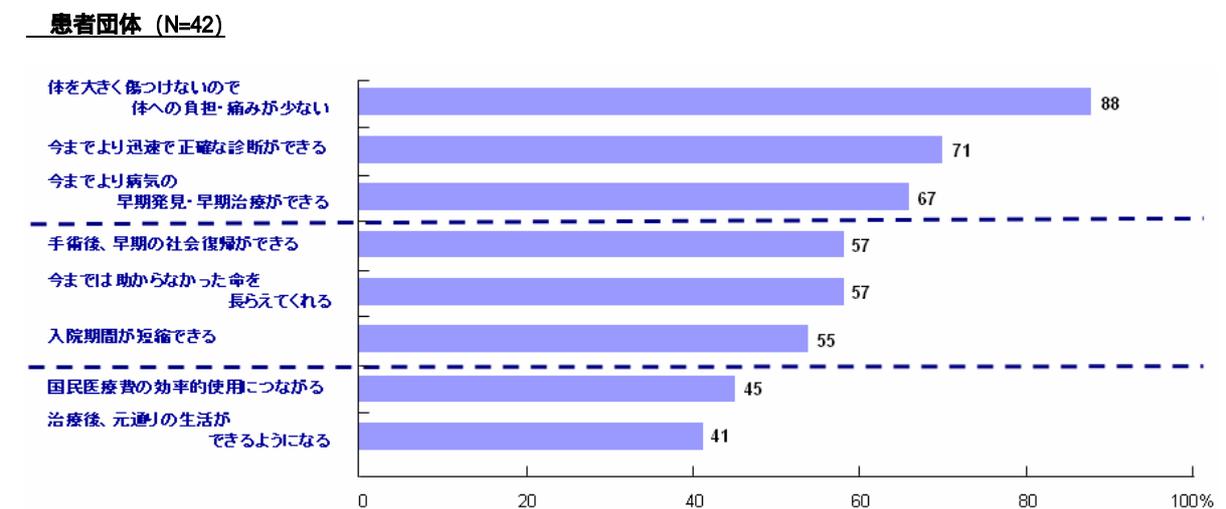
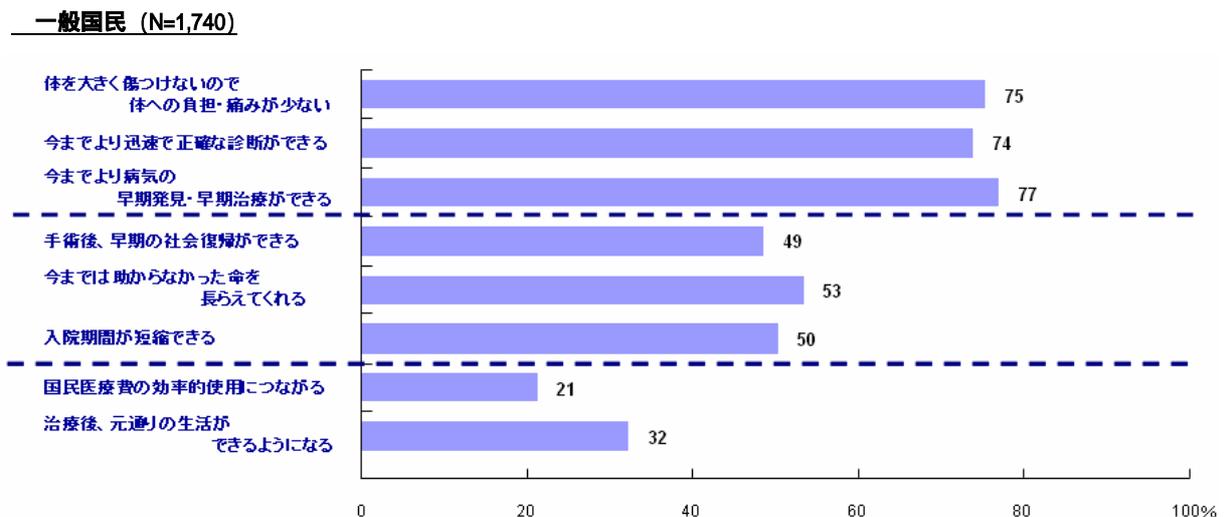
患者団体 (N=49)



3. 先進医療技術は「早期発見・早期治療」「低侵襲」「正確な診断」という点で重要

先進医療技術を重要と思う理由については、一般国民では、70%以上が「今までより病気の早期発見・早期治療ができる」「体を大きく傷つけないので体への負担・痛みが少ない」「今までより迅速で正確な診断ができる」を挙げている。続いて、50%近くが「今までは助からなかった命を長らえてくれる」「入院期間が短縮できる」「手術後、早期の社会復帰ができる」という点で重要だと答えている。一方、患者団体では、「体への負担・痛みが少ない」が88%、「迅速で正確な診断」が71%、「今までより病気の早期発見・早期治療ができる」が67%にのぼっており、先進医療技術の重要な特徴のひとつである低侵襲性が高く評価されていることがわかった。こうした結果から、日本の国民は、先進医療技術が病気の負担の軽減と患者の生活の質の向上に役立つものでなければならないという認識を持っていることがわかる。

Q. 「非常に重要」「やや重要」と思われた理由を次の中からお選びください。[複数回答]

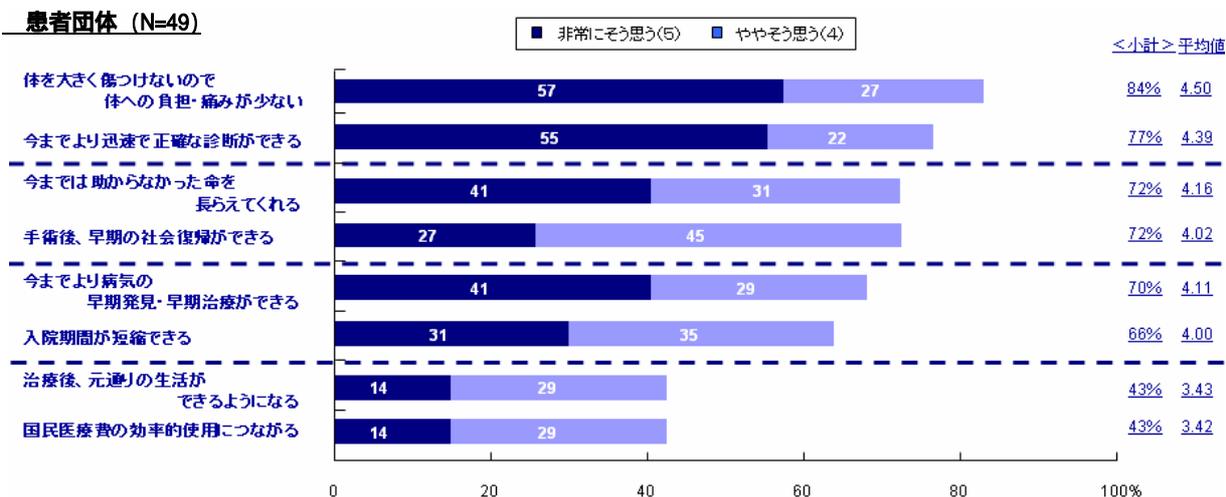
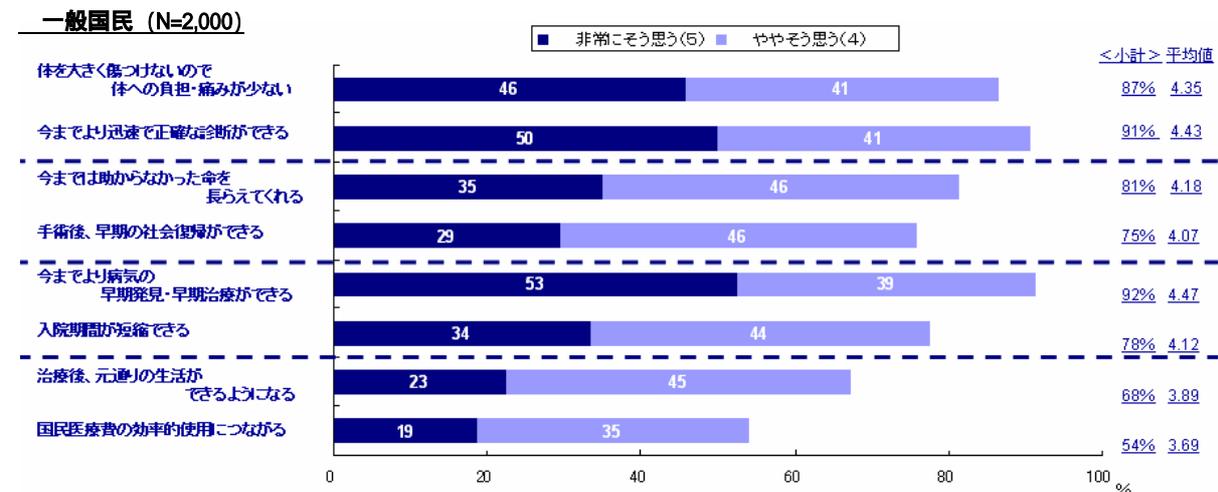


4. 一般国民は診断面で、患者は治療面で、先進医療技術の価値を認識している

先進医療技術の特性を評価する質問では、一般国民では、「今までより迅速で正確な診断ができる」「今までより病気の早期発見・早期治療ができる」など、診断に関する項目で高く評価しているのに対して、患者団体では「体を大きく傷つけないので体への負担や痛みが少ない」など治療に関する項目について高く評価する回答が多かった。疾病の有無によって、その評価項目が変わってくるのは当然と言えるが、患者団体においては、先進医療技術の低侵襲性と迅速・正確な診断への評価が高いことが大きな特徴である。

なお、先進医療技術は病気の早期発見・早期治療や入院期間の短縮など患者さんのQOL向上に役立ち、ひいては国民医療費の効率的使用につながるが、その点に関する認知度は、一般国民、患者団体とも他と比べて高くなかった。

Q. 先程呈示した「医療機器/検査」(先進医療技術)のリストを見てください。これらの「医療機器/検査」(先進医療技術)に関し、下記の項目それぞれについてあなたはどの程度「そう思う」とお感じでしょうか。あなたのお気持ちに近いところを1つずつお選び下さい。

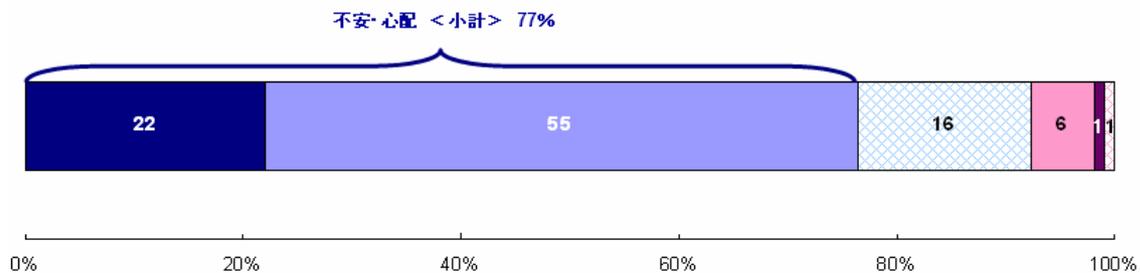
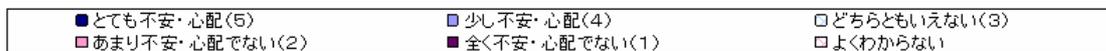


5. 10年後の健康状態に不安を感じている人ほど、先進医療技術を重要と考えている

また現在健康な状態にあると思われる一般国民に対しては、10年後の自身の健康についての意識を調査した。10年後の健康状態に対して、「とても不安・心配」「少し不安・心配」とする人が合計で77%に上り、「不安・心配でない」とする人は7%に過ぎず、心配している人の率が高いことがわかった。

Q. 10年後のあなたの健康状態についてどの程度「不安・心配」とお感じですか。あなたのお気持ちに近いところを1つだけお選び下さい。

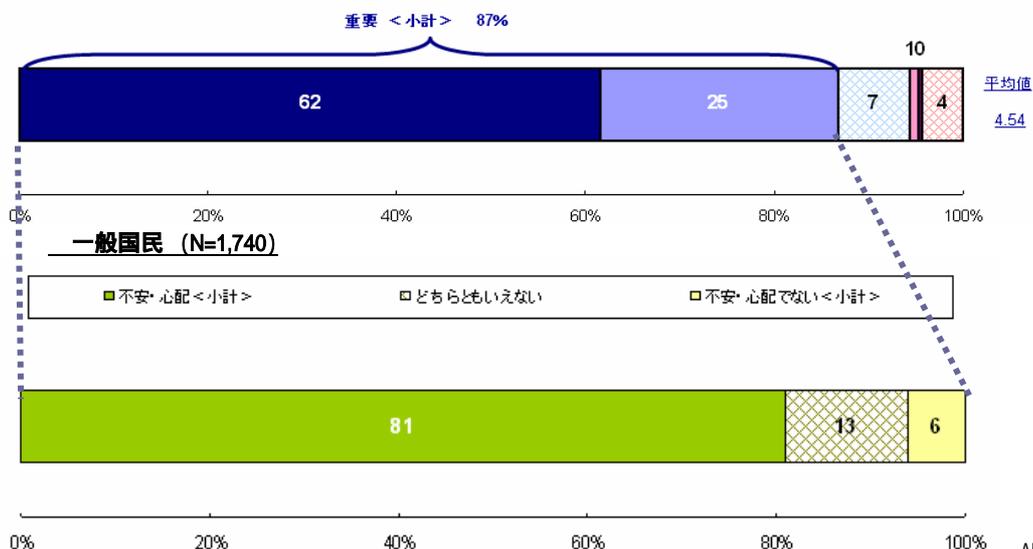
一般国民 (N=2,000)



また、第1章の2(8頁)で、先進医療技術を重要だと回答したものと、上記の10年後の健康状態に関する回答をクロス集計したところ、先進医療技術を重要だと回答した人のうち81%が10年後の健康状態を「不安・心配」と回答しており、将来の健康状態に不安を感じている人ほど、先進医療技術が重要だと考えている実態が明らかになった。

Q. 先程呈示した「医療機器/検査(先進医療技術)」のリストを見てください。あなたは、これらの「医療機器/検査」(先進医療技術)が、あなたやあなたの家族が診断や治療を必要とするとき、どの程度「重要」だと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いところを1つだけお選び下さい。

一般国民 (N=2,000)



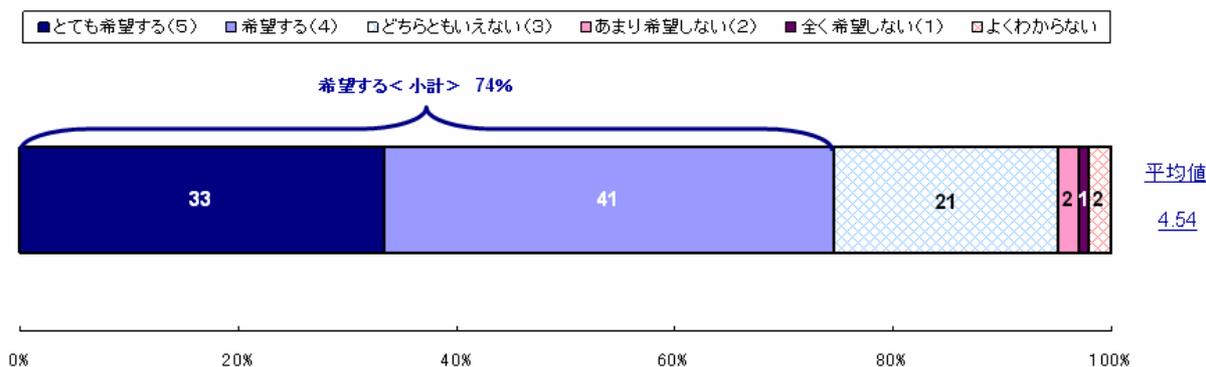
第2章： 世界最新の医療技術での診断や治療について

1. 多くの国民が世界最新の医療技術の利用を望んでいる

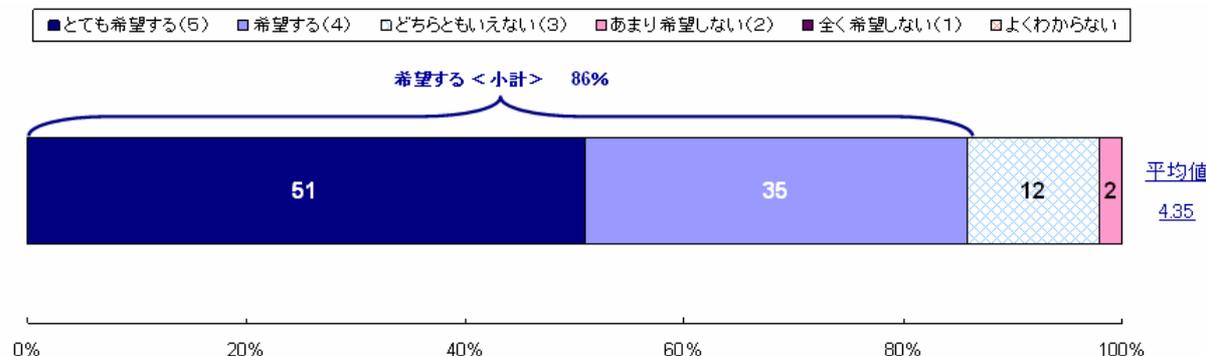
「自分や自分の家族が診断や治療を必要とする時、世界最新の医療技術での診断・治療をどの程度利用したいか」という質問では、一般国民では74%、患者団体では86%が「とても希望する」または「希望する」と答え、非常に強い意向が示された。特に患者団体で「とても希望する」と回答した割合は、一般国民と比べて18%も高く、患者団体ではより世界最新の医療技術の利用を望んでいると言える。

Q. あなたやあなたの家族が、診断や治療を必要とする時、世界の最新の医療技術での診断や治療をどの程度希望したいと思いますか。あなたのお気持ちに近いところを1つだけお選び下さい。現在だけでなく将来的な可能性も視野に入れてお教え下さい。

一般国民 (N=2,000)



患者団体 (N=49)

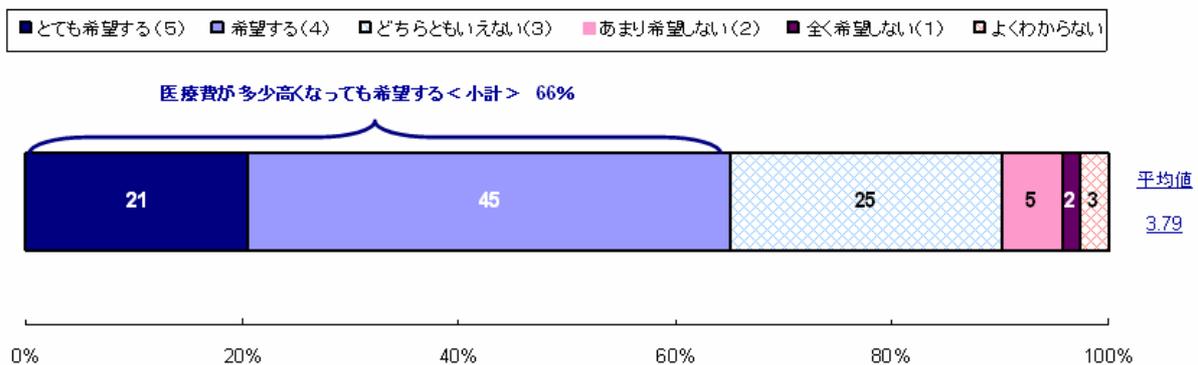


2. 患者、一般国民共に医療費が多少高くなっても世界最新の医療技術を希望している

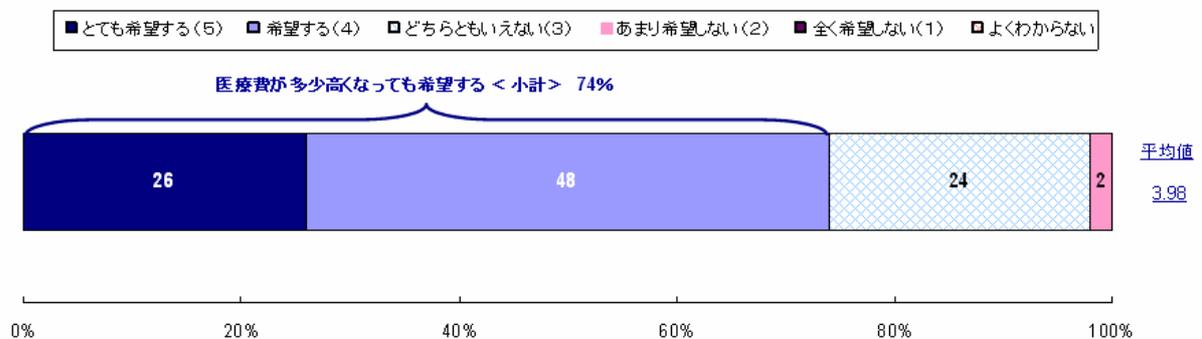
前設問での回答で、世界最新の医療技術の利用意向を示した人に、医療費が多少高くなった場合の利用意向を質問したところ、一般国民では66%、患者団体では74%が「とても希望する」または「希望する」と回答し、いずれも高い利用意向を示したことから、一般国民、患者団体の区別なく、治療を受ける場合には、医療費が多少高くなっても世界最新の医療技術が求められていることがわかった。

Q. 日本の国民あるいは患者さんが世界の最新の医療技術での診断や治療を日本で受ける場合、多少医療費が高くなると仮定します。この場合、日本での世界の最新の医療技術での診断や治療に対するあなたの希望は次のどれに最も近いですか？あなたのお気持ちに近いところを1つだけお選び下さい。

一般国民 (N=1,492)



患者団体 (N=42)



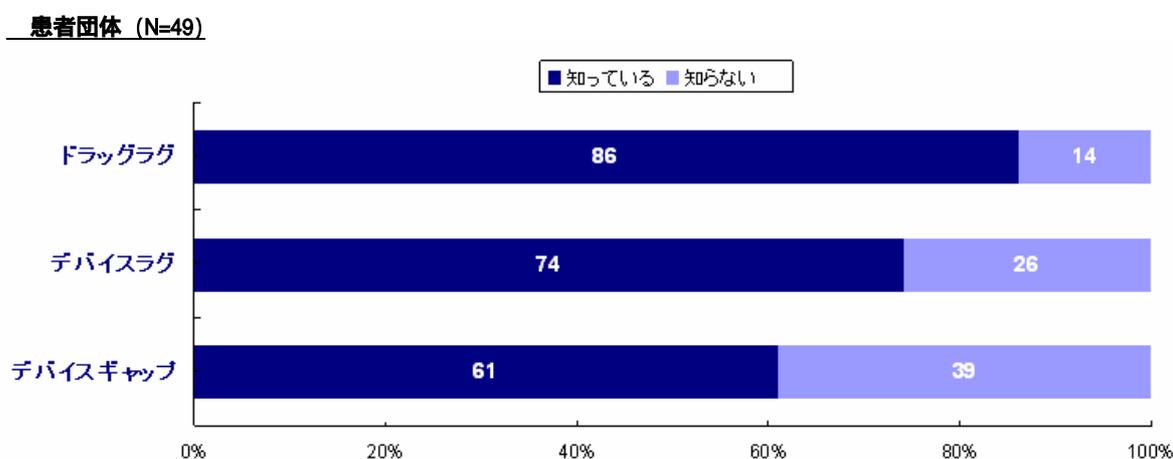
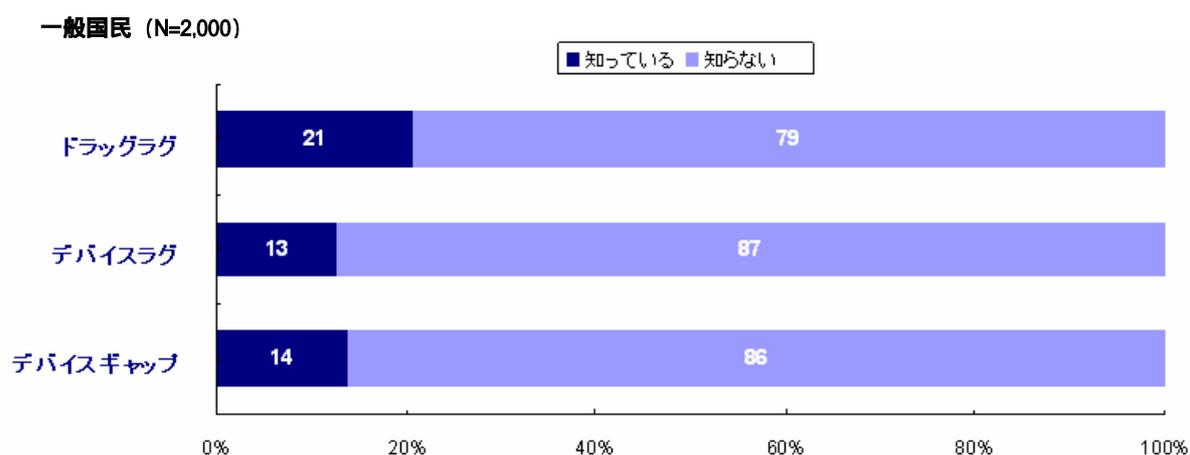
第3章： デバイスラグなどの課題について

1. 一般国民に比べ、多くの患者がデバイスラグなどの課題を認識している

本調査では、現在の日本の医療における課題の例として、「ドラッグラグ」「デバイスラグ」「デバイスギャップ」についての認識を調査した。

一般国民では、「ドラッグラグ」「デバイスラグ」「デバイスギャップ」という言葉の認知率は20%前後と低いのに対し、患者団体では、「ドラッグラグ」「デバイスラグ」は70%以上、「デバイスギャップ」では60%以上の認知があった。患者団体では当事者としてこれらの課題に現実的に直面しているため、その切実な意識の高さが表れていると考えられる。

Q. あなたは、次にあるそれぞれの言葉をご存知ですか。あてはまるものを1つずつお選び下さい。

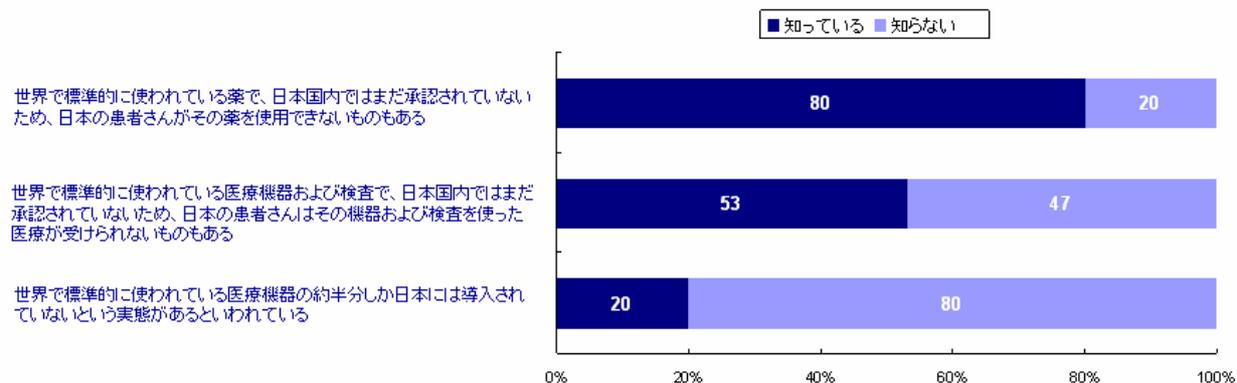


一方、これら4つの課題について、それぞれ内容を説明し、そのような事柄・実態があることを知っているかという質問をしたところ、一般国民では、「ドラッグラグ」では80%、「デバイスラグ」では53%の認知を示し、事柄・実態の認知度は大幅に向上したが、一方で「デバイスギャップ」では認知度はそれほど向上はしなかった。

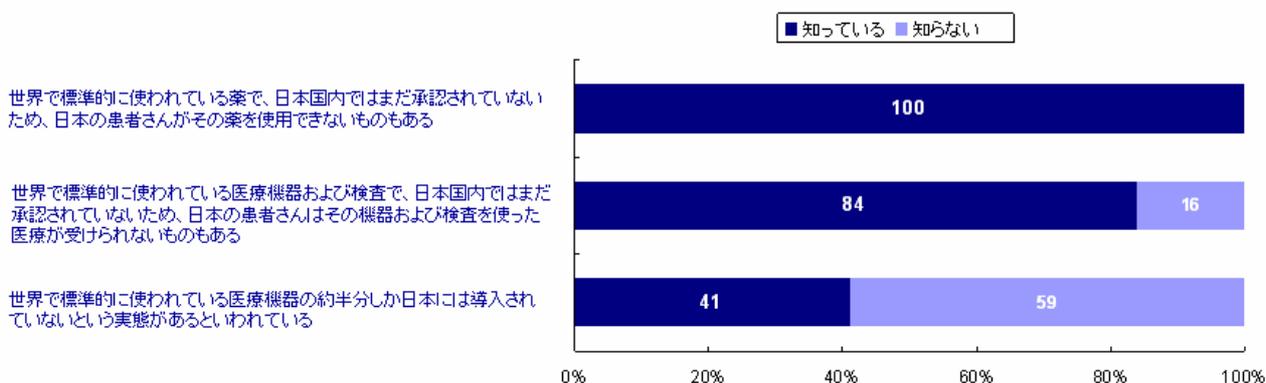
患者団体においては、「ドラッグラグ」の説明には100%の認知があり、「デバイスラグ」も84%とやや高くなったが、「デバイスギャップ」の説明では認知率が逆に低くなった。これは、「デバイスギャップ」という言葉自体の認知はあったものの、その内容までは正しく理解されていなかったためと推測される。

Q. あなたは、日本で次のような事柄・実態があるということをご存知ですか。あてはまる方を1つずつお選び下さい。

一般国民 (N=2,000)



患者団体 (N=49)



2. 多くの国民がデバイスラグなどの課題の早期改善を期待している

また、それぞれの事柄・実態について「改善期待」を聞いたところ、一般国民、および患者団体でもほぼ80%を越えて「ただちに改善すべき」、または「なるべく早く改善した方がよい」との回答があり、いずれの事柄・実態についても強い改善期待があることが明らかとなった。

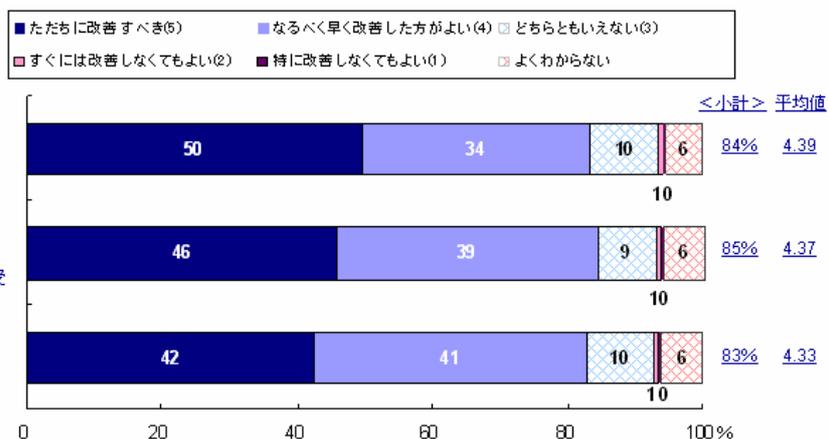
Q. 次にあるそれぞれの事柄・実態についてどの程度「改善した方がよい」とお感じですか。あなたのお気持ちに近いところを1つずつお選び下さい。

一般国民 (N=2,000)

世界で標準的に使われている薬で、日本国内ではまだ承認されていないため、日本の患者さんがその薬を使用できないものもある

世界で標準的に使われている医療機器および検査で、日本国内ではまだ承認されていないため、日本の患者さんはその機器および検査を使った医療が受けられないものもある

世界で標準的に使われている医療機器の約半分しか日本には導入されていないという実態があるといわれている

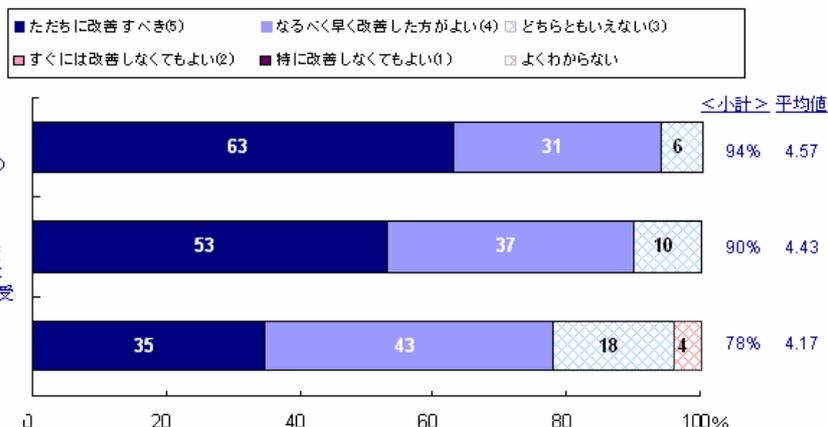


患者団体 (N=49)

世界で標準的に使われている薬で、日本国内ではまだ承認されていないため、日本の患者さんがその薬を使用できないものもある

世界で標準的に使われている医療機器および検査で、日本国内ではまだ承認されていないため、日本の患者さんはその機器および検査を使った医療が受けられないものもある

世界で標準的に使われている医療機器の約半分しか日本には導入されていないという実態があるといわれている



第2部 日本の医療について

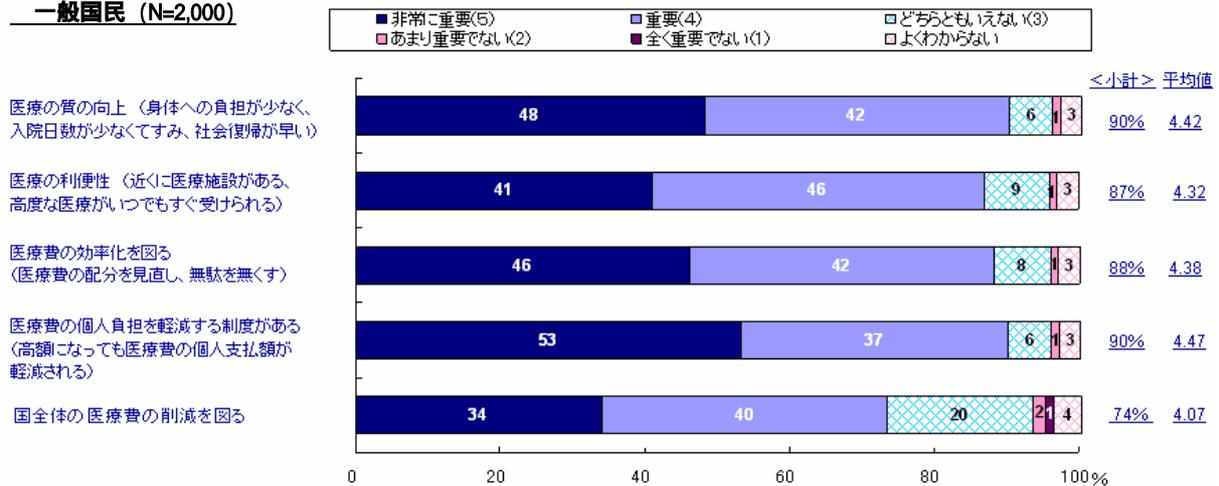
本調査では、現在の日本の医療に関する意識調査も行った。日本の医療制度において重要と考える点、また日本の医療に対する現在の満足度について調査し、それぞれ満足している点、不満に感じている点を探った。

1. 日本の医療において重要な点は「医療の質の向上」

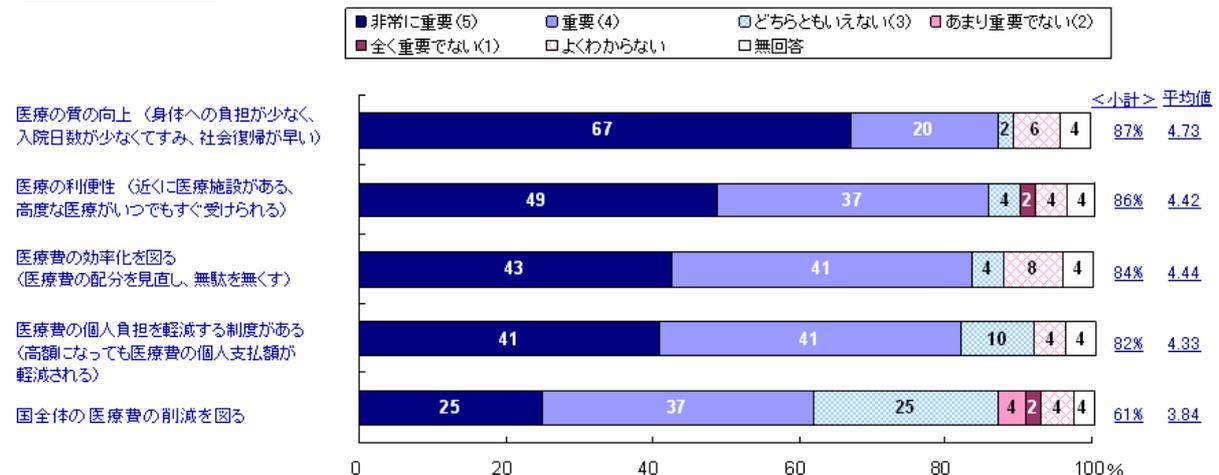
日本の医療制度において重要だと考える項目を聞いたところ、患者団体、一般国民ともに「医療の質の向上」が一番支持される結果となった。また一般国民では「医療費の個人負担を軽減する制度がある」「医療費の効率化を図る」など、費用に関する項目での重要性が高かった。

Q. あなたは次にある項目それぞれについてどの程度重要だと思いますか。あなたのお気持ちに近いところを1つだけお選び下さい。

一般国民 (N=2,000)



患者団体 (N=49)

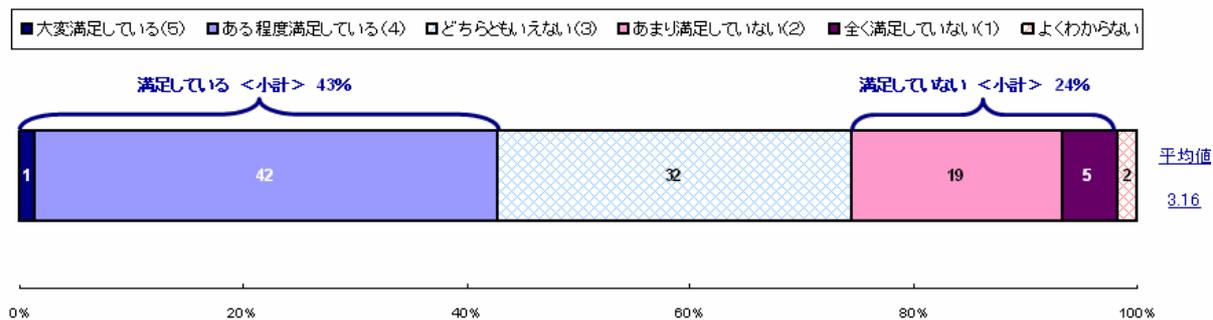


2.現在の医療制度に満足している国民は、全体の半数以下

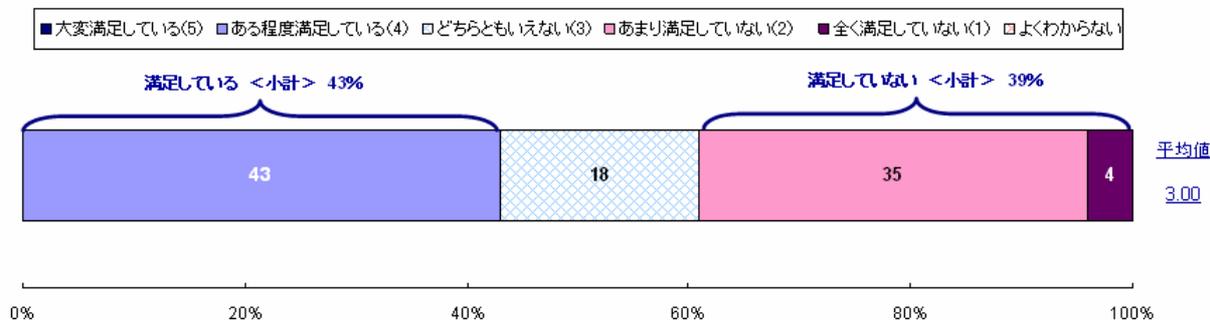
現在の日本の医療についての満足度合いについては、「満足している」と答えた人は一般国民、患者団体、ともに4割程度という結果であった。その一方で、「あまり満足していない」「全く満足していない」との回答は、一般国民で24%、患者団体で39%となっており、「満足していない」という回答は患者団体の方が15%近く高いという結果であった。

Q. あなたは現在の日本の医療についてどの程度「満足」していますか。あなたのお気持ちに近いところを1つだけお選び下さい。

一般国民 (N=2,000)



患者団体 (N=49)

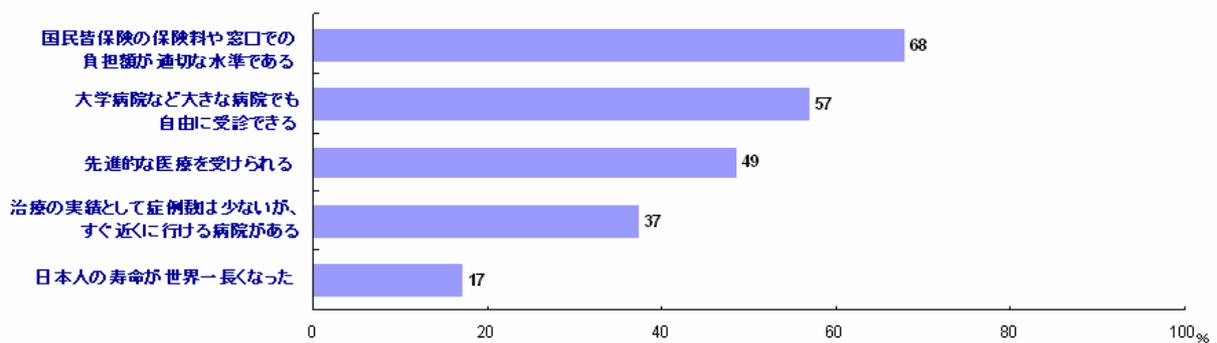


3.多くの国民が個人負担の水準や医療へのアクセスに満足している

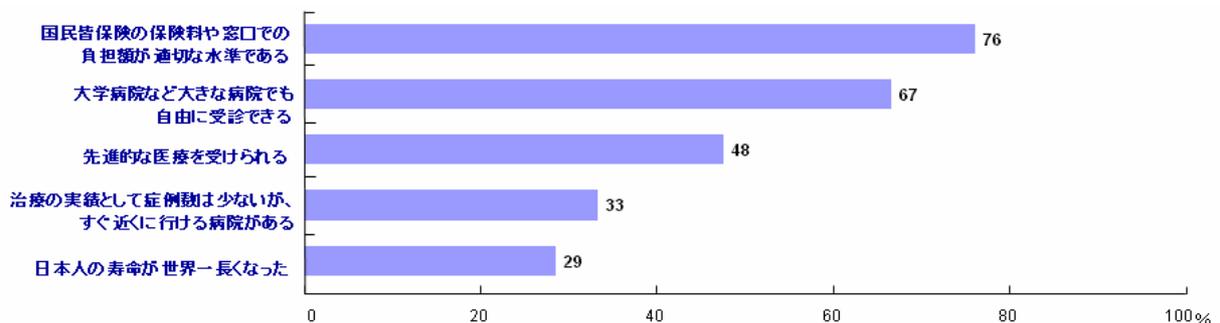
前設問で、日本の医療に「満足している」と回答した人に、現在の日本の医療制度で満足している点について尋ねたところ、一般国民、または患者団体で各項目の順位に変動はなく、「国民皆保険の保険料や窓口での負担額が適切な水準である」、「大学病院など大きな病院でも自由に受診できる」という点が過半数に支持される結果となった。

Q. 現在の日本の医療について満足している点をお選びください。【複数回答】

一般国民 (N=856)



患者団体 (N=21)

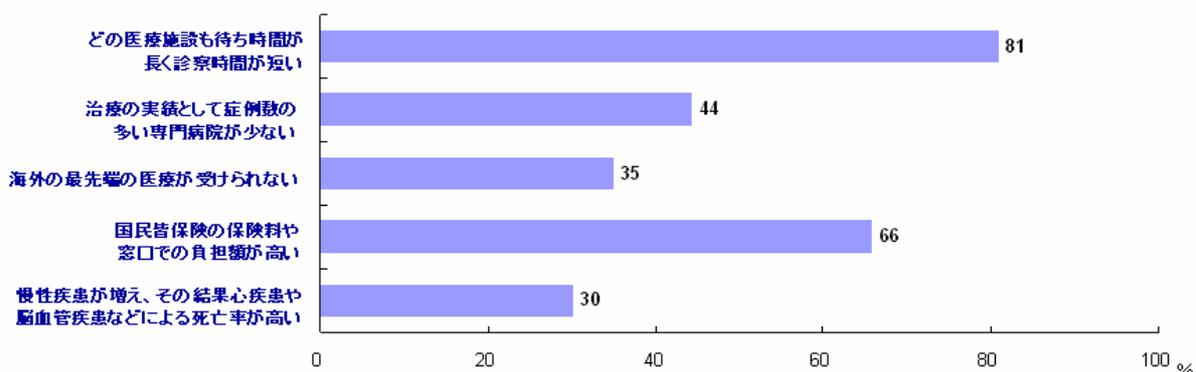


4. 患者は最新の治療が得られないことに、一般国民は費用面に不満をいんでいる

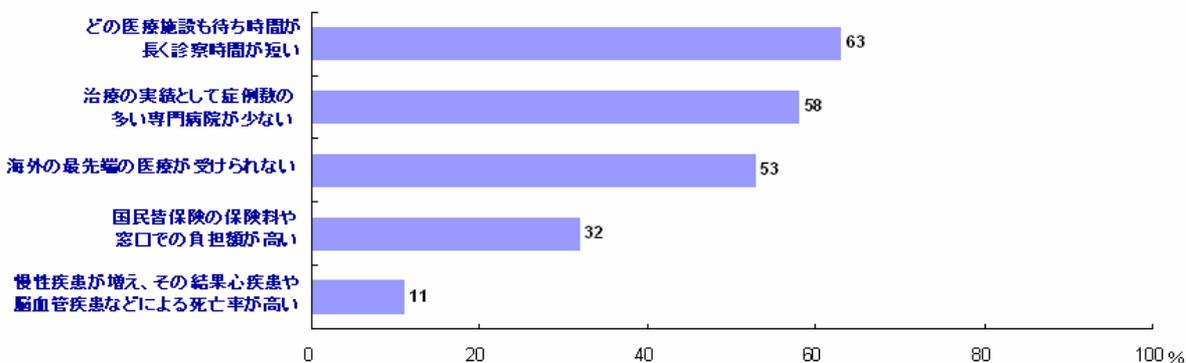
一方で、前述の設問で、日本の医療に「満足していない」と回答した人に、現状の医療制度への不満点を尋ねたところ、患者団体では、「治療の実績として症例数の多い専門病院が少ない」「海外の最先端の医療が受けられない」など、治療に関する不満が多かったのに対し、一般国民では「国民皆保険の保険料や窓口での負担額が高い」ことに不満が多かった。特に、「海外の最先端の医療が受けられない」ことを理由にあげた割合は、患者団体では一般国民より20%近く高かった。

Q. 現在の日本の医療について満足していない点をお選びください。【複数回答】

一般国民 (N=476)



患者団体 (N=19)



米国医療機器・IVD工業会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-14-11 日廣ビル4F Phone: 03-3343-9164 Fax: 03-3343-9206 URL: www.amdd.jp

American Medical Devices and Diagnostics Manufacturers' Association

Nikko Bldg. 4F, 1-14-11 Nishi Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0023 Phone: 03-3343-9164 Fax: 03-3343-9206 URL: www.amdd.jp